

道内初！耳管開放症に対する耳管ピン治療を開始* —新たな治療選択肢で、つらい症状の改善を期待—

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 熊井 琢美



日常生活に支障をきたす耳の閉塞感や自分の声のこもり。これらの不快な症状に悩まされる「耳管開放症」は、これまで明確な治療法が少なく、多くの患者が長年苦しんできました。しかし今、当院ではそのような患者の皆様に、「耳管ピン挿入術」を道内で初めて導入いたしました。

耳管開放症とは、通常閉じているはずの耳管が常に開いたままとなり、外気の圧や自声が直接中耳に伝わることで、様々な不快症状を引き起こす疾患です。軽度であれば生活習慣の見直しや保存的治療で改善する場合がありますが、中等度以上になると、漢方薬や生理食塩水の点鼻では効果が不十分なことも多く、患者のQOLに大きな影響を及ぼします。

そこで注目されているのが、耳管に特殊な医療用ピンを挿入することで開放状態を改善し、耳管本来の機能を回復させる「耳管ピン挿入術」です。ピンの挿入により空気の流れや音の伝達が正常化されることで、症状の緩和が期待されます。術後は保存的治療が無効な患者の80%(Ikeda et al, Laryngoscope 2020)で有効性が確認されています。さらに、症状が再発した場合にも再挿入が可能であり、可逆性と安全性を兼ね備えた治療法として注目されています。

当院では、学会認定* 耳管ピン手術実施医による診断と、患者一人ひとりの耳管形態や症状に応じた個別対応を行っております。全ての患者に有効な治療ではないので、耳管機能検査や聴力検査、内視鏡検査を組み合わせた総合的な評価により、適応の有無を慎重に判断し、最も効果的なタイミングでの治療を提案いたします。

耳閉感や自声強聴などのお悩みをお持ちの方は、ぜひ一度、近くの耳鼻咽喉科でご相談の上、当院の耳鼻咽喉科に紹介受診頂ければと思います。耳管開放症に対するアプローチとして、耳管ピン挿入術は新たな選択肢となり得ます。

* 難治性耳管開放症に対する「耳管ピン手術」は保険適用の外科的治療です。一般社団法人 日本耳科学会による耳管ピン手術実施医制度で認定された耳管ピン手術実施医・実施施設において行われなければならない、令和7年7月1日現在、北海道内での耳管ピン手術実施医は熊井医師のみ、実施できる施設は当院のみとなっております。

問合せ先：旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科